



未来へつなぐ架け橋研修会

2月13日(木)に開催した未来へつなぐ架け橋研修会は、幼稚園・こども園・保育所(園)・小学校の教員、行政担当者など**78名**の参加を得ることができました。

この研修会は、南丹地区幼稚園・小学校・中学校・高等学校等連絡協議会の幼小連絡部会と南丹教育局との共催で毎年実施しています。

パネルディスカッション

「円滑な幼小接続に向けて」園部幼稚園 前田 里穂教諭

園部小学校 中田 史緒教諭

瑞穂小学校 湯浅 わかな教諭

★幼児教育の中に見られる学びの芽生えと、それに応じた環境が整えてあること、教諭の意図ある関わりがよく分かった。また、1年生の生活科の中で見られた対話的な学びと、自分たちで作り出していこうとする主体的な姿は、まさに幼児教育の上に立った授業展開であると感じた。生活科は、幼児教育が基盤であることが分かりやすい。他の教科で、幼児教育で培ってきたことをいかに活かした授業展開ができるのかも学びたい。



★パネルディスカッションを通して、改めてお互いを知るための交流会の良さを感じることができた。さらに、ただ交流するだけでなく、幼児・児童の姿を通して、お互いの教育や子どもの育ちを教職員が共有する場となっているのがとても良いと感じた。子どもを中心に、校種の枠をこえた教育をしていくことが大きな架け橋となるのだと学べた。

グループ協議

テーマ:「幼小接続を円滑にすすめるために～明日からできることを考える～」

近隣の園・小学校がグループとなり、それぞれの子どもの実態から、今後幼小接続をどのように進めていけるか、具体的な話をすることができました。これからの各地域での取組が楽しみです。

★こども園でのねらいが、小学校との学びにつながっているな、大切にしていることが重なるなどと思うところが協議の中でいくつもありました。遊びを通して学びにつながるところがたくさんあること、どちらも子どもの主体性を育てるために様々な取組を進めていること、具体的に何を大切にしているのかも共有できました。4月のスタートの時に知っておいて、活動に入れてみたいことなど具体的に話題に上がったので、勤務校でも来年度活かしていきたいと思いました。

★互いの垣根を下げられるのは今の自分の役割だと思いました。担任が自ら積極的に関わりを持っていくのもいいですが、みんながそうできるわけではありません。でも、幼小の交流は大切だと感じています。しかし、企画したり日程調整したりするのはハードルが高いです。そういう時に、ここで作れた関係は活用できるなどと思いました。そういうつながりを生む橋渡しをしたいと思いまし



指導助言

京都府幼児教育アドバイザー 狩野 理恵子先生

★アドバイザーの先生の話から、幼児教育では、「遊ぶ」ことを楽しむのが、小学校では「相手意識をもって考える」ことにつながることが分かりました。幼児教育でつけた力を小学校で活かしていくことを念頭に置いて、明日から頑張りたいと思います。

